

研究課題名	DPC データを用いた脳血管障害に対する治療後の転帰、合併症の経年変化とフレイルの関与に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学 教授 堀江信貴
研究期間	実施許可日 ~ 2025年 12月 31日
対象者	2011年1月から2020年12月の間に、DPC データベースに登録された方。
意義・目的	<p>本邦死因の第3位を占める脳血管障害の年間死亡者数は約13万人であり、超高齢社会の頂点に昇りつつあるわが国において、脳血管障害の発症数、死亡者数、累積患者数は今後ますます増加すると思われます。しかし、高齢者層は健康な人から要介護状態の人まで、様々な健康状態の人々で構成されており、特に75歳以上では、年齢（暦年齢）と、生物学的年齢の差が大きな症例もあります。健康と要介護状態の間には種々の段階の虚弱（フレイル）状態の人が存在します。すなわち、寿命の延伸とともに、高齢者層は身体的・精神的・社会的に非常に多様化してきているため、これまでのように疾患と年齢（暦年齢）だけで、治療適応や、予後予測をすることは困難となりつつあり、高齢者に対しては、治療方法や生物学的年齢（＝フレイル）など、様々な因子を考慮した対応が必要となってきます。</p> <p>本研究の目的は、日本の全国データベース（DPC データ）をもとに、脳血管障害に対し外科的治療を施行した症例において、暦年齢および生物学的年齢、手術方法の違いを含め、術後転帰に関わる因子やその関連性を検討することです。</p>
方法	<p>本研究はDPC データベースに登録されているデータを用いた解析です。データベースから使用する内容は年齢、性別、破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈瘤、脳梗塞の種類、術前重症度、退院時転帰、治療方法、術後の合併症、転帰等に関するデータです。データベースを運営している厚生労働省より、どなたのものか分からないようにしたデータの提供を受け、研究に用います。</p> <p>具体的には、厚生労働省から本学へ提供されたDPC データを解析し、得られた評価結果を島根県立中央病院、および東京大学大学院が受け取り、本研究の研究者による解析結果のレビューを行い、結果を評価します。</p>
研究の実施体制	<p>研究代表者 広島大学病院脳神経外科 教授 堀江信貴</p> <p>共同研究機関 島根県立中央病院脳神経外科 部長 井川房夫 東京大学大学院医学系研究科 特任助教 道端申明</p>
試料・情報の管理責任者	広島大学病院脳神経外科 教授 堀江信貴
個人情報保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する

形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

研究に用いるデータは個人が特定できない状態でデータベースに登録されている画像のため、研究者にもどなたの情報か特定することはできません。公表される結果にも、特定の個人を識別できる情報は含まれません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5227

広島大学病院 脳神経外科 クリニカルスタッフ 桑原政志
教授 堀江信貴